

8月～9月上旬の農作業

気温が高い時期なので、ハウスやトンネル栽培では、高温障害に注意して管理を行いましょう！

種まき	定植	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・シュンギク ・ダイコン ・カブ ・ハクサイ ・タマネギ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワケギ ・レタス ・キャベツ ・ブロッコリー など 	<p>【タマネギの種まき】 タマネギの播種は一般に8月下旬が適期です。発芽には20℃前後の地温が適当ですがこの時期はまだ地温が高いので、播種後かん水し、敷わらを行って地温低下を図り土壤の適湿を保ちましょう。</p>
	<p>収穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・スイカ ・メロン ・カボチャ ・スイートコーン ・ピーマン ・キュウリ ・トマト ・オクラ など多数 	<p>【カボチャの収穫】 適期は開花から50日前後ですが、いつ開花したかわからないのが普通です。ヘタが褐色になってひび割れが入り、<u>コルク化した頃が穫りごろ</u>（写真：収穫にはまだ早いです）。早どりするとねっとりした感じになり、遅れると長期間の貯蔵には向かなくなるので適期収穫を心がけましょう。</p>



【写真⇒収穫にはまだ早い！】
 ヘタ全体に縦じまが入ってコルク化し、矢印の部分（果実との境界部）にも横に亀裂が入った頃が適期

農業豆知識 ～鉄バクテリア～

7月に入ると、「田んぼに油のようなものが浮いている！」と農業者の方から行政機関によく問い合わせがあります。油であれば物質の特定と対策が急がれますが、油膜と見間違えやすいものとして「鉄バクテリア皮膜」があり、水田では中干し時期によく見られます（右写真）。これは、「鉄バクテリア」と呼ばれる一般的な土壌細菌が、繁殖に伴い水面上に光沢のある酸化鉄の皮膜を形成するために起こるもので全く無害です。油膜はさわってもそのままですが、鉄バクテリア皮膜であれば膜が簡単に割れるので判別できます。油かな？と思ったら、まずこの膜をさわって確認してみてください。鉄バクテリア皮膜であれば問題ありません。これは水が激しく動くと壊れてしまうので、間断かん水等が始まっている8月にはあまり見られなくなります。



【写真：7月中旬 丸子地域】

農産加工（夏野菜の加工）

トウモロコシは品種改良が進み、生で食べられるものや柔らかく糖度の高いものなどがあり、ついつい食べ過ぎてしまいますが、食べきれないトウモロコシは冷凍しておくことでポタージュスープやかき揚げ、いろいろな料理のわき役に大活躍です。今回はポタージュスープのレシピを紹介します。

<トウモロコシのポタージュスープ>

トウモロコシは、蒸して粒をもぎ取って冷凍用袋に入れ冷凍する。

材料（4人分）

冷凍トウモロコシ(粒) 200g 玉ねぎ 100g ごはん 40g
水 500cc バター 大さじ1 塩 小さじ1/2
こしょう 少々 スープの素 2個 牛乳 200cc

- ① 玉ねぎはみじん切りにしてバターで炒める。
- ② ①に冷凍トウモロコシ・ごはん・スープの素・水を入れ、塩こしょうをして弱火で20分煮る。
- ③ あら熱をとり、ミキサーにかける。
- ④ 鍋に移して火にかけ、牛乳を加えて一旦沸騰させて火を止める。



農作業安全チェック！ ～ 耕うん機作業 ～

「耕うん機による事故」は、①バック、②軽い、というのが大きな原因です。

【後ろ向きに歩くことは、人間の非日常的行動】

人間はスポーツなど特別な時を除いて、後ろ向きには歩きません。ところが耕うん機の作業では後進を行うことがあります。つまり日常でない行動を行っています。ハウス内で隅を耕そうとバックし、そのままハウスの壁に押し付けられた事故や、立木に押し付けられて首がハンドルに挟まり首吊りとなつての死亡事故が起つています。人間にはバックモニターが設置されていません(後ろに目がついていない)。とにかく、バックの際は必ず振り返って足元の障害物、立木、壁、塀などの存在を確認する必要があります。また、格納する際はバックではなく前進で格納するなど、極力バックしなくても良い方法を最優先で選択するようにしましょう。

【耕うん機が軽量化したために】

一昔前の耕うん機は大きく重量がありましたが、最近では小型化・軽量化しているため、固い土では簡単に浮き上がってダッシング(急に前へ出る)などを起こします。これはロータリーが土に食い込まず、車輪のように飛び跳ねるために起こります。最初はロータリーの回転を落とし浅く耕したり、ロータリーの逆回転機能のあるものでは逆転作業を行うことで防ぐことができますので留意しましょう。

[図 農林水産省資料より]



人間はバックモニターを持たない。バック時は立木、壁、塀などの存在を確認！



固い土の耕うん時のダッシング。最初は浅く起こしたり、ロータリーの逆転作業を！

あさつゆ連絡

電話番号：0268-41-1062

FAX：0268-41-1063

技術事項作成協力

上田農業改良普及センター（木曽）

電話番号：0268-25-7156（直通） FAX：0268-23-2161